

平成 22 年 2 月 2 日  
日本宇宙少年団 本部

平成 22 年 日本宇宙少年団分団長会議 議事報告書

1. 日時	日時：平成 22 年 1 月 23 日（土）13：00～18：20 24 日（日） 9：00～12：00
2. 場所	国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 402 号室 東京都渋谷区代々木神園町 3-1 電話 03-3467-7201（代表）
3. 出席者	議長：増水 紀勝（鹿児島地方本部） 副議長：麻生 茂（福岡分団） 分団長（代理出席者含む）：51 名 委任状提出分団長：51 名 オブザーバー：19 名 本部運営委員：9 名 本部役職員：15 名 JAXA：3 名
4. 議事	1 月 23 日（土） 開会 議長挨拶：増水紀勝議長 配布資料等確認 本部長挨拶：松本零士本部長 団長挨拶：毛利衛団長（ビデオメッセージ） 【報告】【決定事項】平成 20 年度表彰及び次年度の表彰規定について 【報告】本部運営委員会報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本部運営委員会について</li> <li>・本部運営委員会 委員長挨拶</li> <li>・子ども部会</li> <li>・指導者育成部会</li> <li>・教材開発部会</li> <li>・おとな部会</li> <li>・総括</li> </ul> 【報告】事務局（財団）からの報告 【決議事項】地区における連携について  1 月 24 日（日） 【意見交換】（分科会）地区ごとに分かれての協議 （地区内の情報交換／地区連絡協議会について／本部への要望事項等） 全体会合（地区ごとの協議結果など）（各地区 発表 4 分） 副本部長挨拶：的川泰宣副本部長 次回分団長会議について 閉会

<p>5. 配布資料</p>	<p>資料 1 平成 22 年 分団長会議議事次第  資料 2 平成 22 年 分団長会議出席者名簿  資料 3 平成 21 年 分団長会議議事録  資料 4-1 平成 20 年度表彰分団一覧  資料 4-2 平成 20 年度分団状況一覧  資料 4-3 日本宇宙少年団表彰大綱改訂案  資料 4-4 【細則】分団表彰の基準について  資料 5-1 本部運営委員会について  資料 5-2 子ども部会 報告  資料 5-3 指導者育成部会 報告  資料 5-4 教材開発部会 報告  資料 5-5 おとな部会 報告  資料 6-1 平成 20 年度 事業報告書及び決算書類  資料 6-2 平成 21 年度 事業計画書及び収支予算書  資料 6-3 平成 22 年度の活動に係る事務局からの報告  資料 7 地区における連携について</p> <p>その他 宇宙をテーマにしたミュージカルへのご協力をお願い  「宇宙飛行士になった子どもたち」チラシ  NASA 2 大宇宙センターを体験しよう！チラシ  夢プロジェクト 2010 チラシ</p>
<p><b>1 月 23 日（土）分団長会議 1 日目</b></p> <p><b>議長挨拶：鹿児島地方本部 増水本部長</b>  「昨年度も、今年度も宇宙に関するイベントや話題は満載である。このような時期に子どもたちと共に科学する心を養い、YAC の元で活動することは大変意義深いものである。その一端としての分団長会議は重要で、実のあるものとして十分に論議して有意義な会議としてほしい。」と呼びかけられた。</p> <p><b>本部長挨拶：松本零士本部長</b>  「かつて、自分は宇宙少年であった。本来なら、今は火星に住んでいるはずであったが、絵を描く事により、子ども達と共に夢を果たしている。昨今、温暖化の問題により地球存続が危ぶまれているが、宇宙開発はその危機を脱する大切な事業である。人類としてその事業を支える為にも、我々が触媒を増やし、受け渡し役である事を意識して励まなければならない。」と呼びかけられた。</p> <p><b>団長挨拶：毛利衛団長 筑波宇宙センターからビデオメッセージ</b>  「地球は、かつてない環境問題に直面し多くの問題を抱えている。昨今、日本の宇宙開発は温度や CO<sub>2</sub> の量を、人工衛星を使いアメリカが成し得なかった事も行い、人類存続の重要な仕事を行っている。アルマ計画ではチリの天文台が中心となって行っていたが、今後の計画では 25% を日本が担い貢献していく事を目指している。日本が、これらの宇宙開発に携わり、限界に挑んで行くのは、人類の持続的な社会活動を支える一端を担っている誇りと共に、次世代にも宇宙への夢を伝えてほしい。」と、呼びかけられた。</p>	

- 平成 20 年度表彰及び次年度の表彰規定について  
資料 4-1, 資料 4-2, 資料 4-3 に基づき、分団表彰。

上記、本部事務局の報告を受けて質疑応答

≪佐野分団 太田春樹氏≫

- ・細則 1. (5) PR 貢献賞に関して、③『新聞等のメディアに年 5 回以上記事が掲載されており、記事が本部にも送付されている。』とあるが、掲載回数の基準をゆるめてほしい。掲載回数だけでなく一般参加者数なども含めて PR 貢献賞の対象としてほしい。

⇒表彰基準の掲載回数は固定ではなく、細則については、実状に合わせ検討したいと思っている。活動参加者数に関しては、優秀活動賞で表彰対象としている。ご理解いただきたい。

(参考) 水沢 Z 分団 (14 回)、みなべ梅の里分団 (13 回)、愛媛松山ジェネシス分団 (6 回)  
その他 1 回以上の分団は、16 分団ある。

- ・細則 1. (6) 合同活動賞に関して、報告の仕方、範囲が曖昧。確認したい。

⇒今回は基本的に異なる地区の分団との合同活動を表彰とした。

(例) 他の地区(関東の分団であれば関東地区以外)の分団と活動した,などが対象となる。

≪備後ローズスター分団 森田泰元氏≫

- ・細則 1. (5) PR 貢献賞に関して、不特定多数が参加のイベントであれば掲載されやすいが、会費徴収して行っている団員の活動を掲載してもらうのは大変難しい状況がある。そのあたりはどう考えているか。

⇒(本部事務局) 地域やメディアとの関係性の強弱等、問題もあるかと思うが日本宇宙少年団を全国に知って頂きたいと考えている。ご理解頂きたい。

⇒(議長) 活動とは何かを考慮に入れて、今後、審査項目・基準を検討頂きたい。

⇒(本部運営委員会おとな部会・尾関芳久部会長) 審査基準に関しては、1 回の活動で 3 紙に掲載された場合 3 カウントとしている。個人的には例え何紙が掲載したとしても 1 回の活動であれば 1 カウントと思っているが、貢献度として数回カウントしてよい事になっている。これらの基準に関しては、部会に意見を持ち帰り、今後の検討課題とさせて頂きたい。

上記、質疑応答を踏まえ下記決定事項の採決を行った。

【【決定事項】】

➤ 資料 4-3 日本宇宙少年団表彰大綱の改訂について

**賛成多数により可決**

- 本部運営委員会報告

【本部運営委員会について】本部事務局：小定 資料 5-1 参照

- ・平成 21 年分団長会議にて運営委員会の設置と委員が決定された。

【本部運営委員会 委員長挨拶】福岡分団 麻生茂氏

・昨年の分団長会議で認めていただいた運営委員会を早速立ちあげて、ここ一年やってきた。子ども部会、指導者育成部会、教材開発部会、おとな部会の各部会長と委員のかたには大変御尽力頂いた。お陰で、YAC の分団サポート状況はかなり充実したものになってきたと思う。これに満足せずに、団員数を現在の 3 千人⇒1 万人⇒3 万人に増やしていくには、各部会での活動をさらに活発に行い、YAC の分団活動及び全国的な動きへのサポート体制を強化していきたい。

【子ども部会】備後ローズスター分団 中村隆嗣氏 資料 5-2 参照

- ・ YAC 団員向け配布教材の在庫が多少あり。希望分団は本部事務局へ申し出てほしい。
- ・ 共通プログラムに関して、年 1 回でも良いので実施して頂きたい。「宇宙のとびら」連載コーナー「みんなで考えよう」や子ども衛星アイデアコンテストを、各分団でも取組んでほしい。
- ・ 宇宙アサガオの栽培（5 月～9 月）。希望分団に、可能な範囲の数で配布し栽培してもらおう。

《六甲分団 大塚進康氏より》

- ・ 宇宙アサガオに関して、宇宙めだかを飼育し全国へ広めたリーダーが当分団にいる。その仕組みを適用して全国に広めたらどうか。提案したい。

【指導者育成部会】呉やまと分団 白井敏夫氏 資料 5-3 参照

- ・ 地区のリーダー育成にも関わるので、地区連絡会でも何かあったらご意見頂きたい。

【教材開発部会】苫小牧分団 藤島豊久氏 資料 5-4 参照

- ・ 教材事例研究会を、水ロケットに関して鹿児島地区で試験的に実施した。参加リーダーからも好評であり効果的であった。全国で行っていきけるよう支援したい。

【おとな部会】一宮分団 尾関芳久氏 資料 5-5 参照

- ・ 表彰大綱の改訂に関して、ご意見を賜り今後の検討課題としていきたい。

上記、本部運営委員の報告を受け質疑応答

《米沢分団 梅津幸保氏》

- ・ YAC と連携している KU-MA が主催する宇宙の学校について、組織形態や「宇宙の学校」の様子を教えてください。
- ⇒ (的川泰宣副本部長) 名称 KU-MA は、子ども・宇宙・未来の会の略称。組織については大人中心の組織である。「宇宙の学校」は、子どもと家族の結びつきをテーマとし、年 4,5 回のスクーリングの間に家庭学習があり、親子で一緒に取り組む活動である。

総括

《本部運営委員会委員長 麻生茂氏》

子ども達をグローバルな視点で育てるうえでも分団活動は大切な活動である。指導者セミナーに参加する事は、子ども達を預かるうえで保護者たちへの「質の保証」として是非参加してほしい。今年度は、新規立ち上げ分団の指導者セミナー開催が 2 回、教材事例研究会が鹿児島で試験的に行われ、活動の質の保証と共に強化事項として期待している。今後は、地区ブロックが連携し強力になっていく事を願い、その支援においても運営委員会で引き続き協議し、今後も皆様のご協力を賜りたい。

#### ●事務局（財団）からの報告

資料 6-1, 資料 6-2, 資料 6-3 に基づき報告 本部事務局：岩本

上記、本部事務局の報告を受け質疑応答

《六甲分団 大塚進康氏》

- ・ Web サイトに関して、トップページ右上にカウントされている YAC 島住民の数字は何か。
- ⇒ 団員数及びリーダー数である事を説明。

《各務原分団 中尾彰氏》

- ・ Web サイトに関して、改修とあるが、改修事項は何か。  
⇒活動の参加登録機能の削除、活動報告時の参加者チェックボックスを団員番号順ではなく、五十音順にするなど予算により検討中。詳細は別途ご報告させて頂きたい。

《さくら分団 小川美奈氏》

- ・ Web サイトに関して、活動報告の際に分団員でない参加者は「その他」にチェックを入れて人数報告しているが、この場合は他分団員やサテライト団員も保険対象外となり過払いしてしまうことになる。保険対象者と対象外など、保険付与の有無が報告できるように改修してほしい。

↓同様の意見あり

《広島分団 高橋浩一氏》Web にて

- ・ 保険に関して、予め分団が活動ごとの保険適用の有無を本部へ申請してはどうか。  
⇒保険対象者の集計方法なども踏まえ、改修事項を再検討して考慮したい。

《さいたま支部 工藤孝氏》

- ・ SEL 活動支援制度に関して、SEL を持っていない分団は、子どもたちの支援としては不均衡となるのではないか。昨今、リーダー不足であり 1 日の講習を義務付けるとなると、面倒なのを理由になり手がなくなる懸念がある。現状を考慮してほしい。  
⇒ (本部事務局) YAC リーダーの品質保証として平成 24 年までの取得義務が決定した。財源の問題もあり、JAXA の支援制度を利用している。近くで宇宙教育指導者セミナーが開催されないために修了証が受けられないところは、いくつか講習を受けられる方法があるので本部事務局に相談してもらいたい。  
⇒ (副議長、本部運営委員会委員長 麻生茂氏) SEL 取得は、平成 20 年度より 5 年間で取得いただくよう決議され過渡期は長く取っている。保護者への「質の保証」として、受けて頂く様、分団長から率先して進めて頂きたい。

《吉田宇宙芸術祭分団 福田智子氏》

- ・ 保険に関して、費用を SEL 支援制度で申請していたが、認められるか。  
⇒支援対象となるので問題ないが、本部でかけている保険はレクレーション保険であり、宿泊を伴う活動は、適用外となる。しかるべき保険に加入し活動を行って頂きたい。平成 22 年度の保険内容については、改めてお知らせさせて頂きたい。

《備後ローズスター分団 森田泰元氏》

- ・ 保険に関して、活動前後に行うリーダーの講習会等も分団活動に関わるものとして、保険対象になればリーダーも安心だと思う。  
⇒活動の報告をしていただいたものには含められるように検討する。

《東広島分団 伊藤昭夫氏》

- ・ Web サイトに関して、当分団では、Web ページからの活動参加登録機能の活用をお願いしフル活用している。改修で、その機能がなくなると大変困る。削除しないでほしい。  
⇒ (本部事務局) 前回の分団長会議で、参加登録機能についての議論が行われ、改修事項の一つとした。皆さんの意向を伺って再度検討したい。  
⇒ (八雲ホシカミ分団 亀山英嗣氏) 全員一致は難しい。Web 機能の使用に関しては、個々の判断に任せ活用すれば良いこと。せつかくある機能を削除するのはもったいない。  
⇒ (本部事務局) 機能の使用有無を選択性にするなど、削除しない方向で検討したい。

●地区における連携について

資料 7, 資料 7 別紙 1 に基づき報告 本部事務局：小定

上記、本部事務局の報告を受け質疑応答

《千葉コスモス分団 小池惇平氏》

- ・地区連絡協議会に関して、所属しなければならないのか、所属しないとどうなるのか。  
⇒選択ではなく、全てが所属することになる。

《木津川分団 太田富広氏》

- ・第 31 条 (3) に関して、ブロックについて教えてほしい。  
⇒資料 2 を参照の事

《議長、鹿児島地方本部本部長 増水紀勝氏》

- ・第 31 条 (3) に関して、現状、鹿児島地方本部は上手く行っているが、地方本部を解散して所属しなければならないのか。地区連絡協議会を通してでないでないと情報が来ないのか。  
⇒地方本部のまま九州ブロックに所属頂く。従来通り本部からの連絡は各分団に通知する。地区連絡協議会に所属したからと言って、本部からの情報が得られなくなるわけではない。

《米沢分団 梅津幸保氏》

- ・地区連絡協議会に関して、事務経費はどうなるのか。  
⇒メールベースなど、経費のかからない緩やかな運営から始めてもらいたい。

上記、質疑応答を踏まえ下記決議事項の採決を行った。

【【決議事項】】

第 31 条 (3)・(4) 改訂 (5) 削除

改訂案は下記

- (3) 地区連絡協議会の設立は 1 ブロック内 1 組織とし、全ての地方本部、支部、分団は地区連絡協議会に所属するものとする。
- (4) 地区連絡協議会には、会長及び事務局を置く。会長は地区連絡協議会を代表し、事務局は会務を処理する。会長及び事務局の任期は 1 年とし、再任を可とする。

賛成多数にて可決

その他ご意見

《こおりやま分団 山本洋一郎氏》

- ・資料 4-2 に関して、本日出席されている新規分団があるにも関わらず、5/1 以降結団された分団の活動の様子が掲載されていない事に違和感がある。新規分団の様子も知りたいので掲載してほしい。  
⇒平成 20 年度表彰のための参考資料。分団現状報告ではないのでご理解頂きたい。

## 1月24日（日）分団長会議 2日目

- 地区ごとに分かれての協議  
（地区内の情報交換／地区連絡協議会について／本部への要望事項等）
- 全体会合  
（地区ごとの協議結果など）各地区発表 4分

---

### 《北海道地区》（分科会とりまとめ：藤島委員）

発表者：大塚昌史氏（札幌分団リーダー）

会長：藤島豊久氏（本部運営委員・苫小牧分団）※2年で持ちまわり（現在3代目）

事務局：細川正直氏（苫小牧分団） ※会長のいる分団が担当

→協議会発足から23年 = 今日は実質今年度3回目の協議会となった。

- 水 Rocket 地区予選  
大会予定日：5～6月頃  
大樹町で行い、一般募集も行う。北海道限定の大会ポスターを全道に配付する予定。
- 来年度以降、YAC 全道大会を企画中。
- 分団、SEL を含めた教材を使った講習会があるとよい。
- 年1回、広報拡大活動を行う。

---

### 《東北地区》（分科会とりまとめ：梅津分団長）

発表者：梅津幸保氏（米沢分団分団長）

会長：水沢 Z 分団 ※今回欠席のためこれから了解を得る。

事務局：こおりやま分団

→今日が地区連絡協議会を発足する機会となった。16分団のうち半分ほど休眠中にあり、実質8分団が活動しているのが現状。うち、本日出席が3分団のため他は委任状を受けて報告予定。

- 水 Rocket 地区予選  
大会予定日：未定  
今年度は、出来なかったため推薦にて参加者を決定した。来年度は、協議会を通して話し合い、地区大会を実施していきたい。

以上の活動を通してリーダーの研修会、SEL の取得を推進していきたい。他、今回出席の3分団の結団経緯や課題などの情報交換を行った。これを機に東北地区を活性化していきたい。

《関東地区》(分科会とりまとめ：浦野委員)

発表者：浦野須磨子氏 (本部運営委員・未来 MM 分団分団長)

会長：小林中氏 (藤沢分団分団長)

事務局：南北それぞれの事務局を会長がまとめる。

- SEL を地区内で協力し合って付け合いをしたい。  
“ 助け隊 ” を結成し、それぞれの得意分野を活かしてリーダーが相互に行き来する。  
隊長は、小池惇平氏 (千葉コスモス分団分団長)。
- 中学生の分団員を繋ぎとめていきたい。

— 北関東 —

会長：太田春樹氏 (佐野分団分団長)

事務局：さいたま支部

※1 年ごとのもちまわり (行政職員の異動を考慮)

- 水 Rocket 地区予選

大会予定日：7 月 18 日

当初 8 月に実施予定だったが、間に合わないので 7 月 18 日になんとか実施したい。今年度、地区予選を行ったことである程度まとまったので、2 月に水 Rocket 実行委員会を立ち上げて集まることになっている。

— 南関東 —

会長：澤井政信氏 (相模原分団分団長)

事務局：横浜分団

- 水 Rocket 地区予選

大会予定日：7 月 19 日 (海の日)、予備日は 7 月 25 日 (日)

例年、相模原地区が集まって行っていた。それをベースに今年度地区予選を行ったので相模川河川敷にて行う。昨年、水 Rocket の規約を作成したので、南地区で共有したい。

— 関東全体 —

- 本部への要望

・リーダー手帳を早めに作成してほしい。いつ頃になるのか。

⇒予算の問題もあるが、できるだけ早く配付したい。

《北陸信越地区》(分科会とりまとめ：加藤委員)

発表者：加藤隆弘氏 (本部運営委員・金沢南ディスカバリー分団リーダー)

会長：金沢 3 分団の分団長より選出予定

事務局：金沢支部

→基本的には 2,3 年を目処に協議を進めていく。来年度に関しては金沢から選出するが、具体的にどの分団長にお願いするかは未定。



●SEL 研修を来年度は新潟地区で開催できるとよい。3年前に新潟地区で実施し、当時の受講者がちょうど更新時期にあたるので、継続のための講習ができないだろうか。

●水 Rocket 地区予選

大会予定日：8月21日

今年度は、金沢にて行った。来年度は、福井県のエンゼル分団が中心となって、エンゼランドにて実施予定。

質疑応答（本部運営委員 臼井敏夫氏）

・大会予定日に関して、8月とはどういうことか。

⇒（本部）日程に関しては原則8月10日までとしているが、その後、本部へ「難しい」という個別の相談があった。原則は変わらないが、別途相談させていただきたい。水 Rocket 実行委員2010と再度調整する。

■本部への要望

・SEL 活動助成金に関して、取得しきれしていないのに移行期間が短い。何らかの移行措置を配慮してほしい。

⇒平成21年度は基本的にはSEL 支援制度でお願いしたい。20年度まで助成金を受けていて今年度の申請が難しいという場合には、個別でご相談していただきたいとご案内しているが、相談実績は今のところなし。案内が遅かったこともあるので、今年度の申請ができなかったという場合には今後ご相談いただきたい。来年度以降に関しては、こういったことも考慮して制度設計していきたい。DVD、オンラインでの受講も可能なので出来る限りSEL 取得をお願いしたい。

-----  
《東海地区》（分科会とりまとめ：尾関委員）

発表者：中尾彰氏（各務原分団リーダー）

会長：澤岡昭氏（大同大学学長）

副会長：中日新聞事業部長

会長代行：尾関芳久氏（一宮分団分団長）

事務局：中尾彰氏（各務原分団リーダー）

→スペースフレンズを開催した際の経緯もあり、会長は分団長ではない。他の地区とは違う点をご了承いただきたい。規約は他地区を参考に作成予定。

●水 Rocket 地区大会

大会予定日：7月25日

静岡県の館山寺にて開催予定。主催：東海地区連絡協議会、共催：静岡支部、主管：浜松分団で行う。

-----  
《近畿地区》（分科会とりまとめ：大塚分団長）

発表者：大塚進康氏（六甲分団分団長）

会長：大塚進康氏（六甲分団分団長）

事務局：六甲分団

● 今回の分団長会議には 5 分団が出席し、いろいろな情報交換があった。近畿地区は、2 分団以上の合同例会が 1 年に 2、3 回あるのが特色。

● リーダーの共有化として、他分団へのリーダー出張を検討。

● 水ロケット地区予選

大会予定日：7 月 31 日または 8 月 1 日

V2 を狙い、2 月あたりから準備を開始する。5 月を分団予選とし、6 人選出する = 5 分団で 30 人 → 30 人で地区予選とする。去年は認定証を発行したが、今年は賞品を追加したい。

■ 本部への要望

・ 水ロケット大会のペットボトルに関して、会長が取り纏めて本数を出すので、4 月に送ってほしい。

⇒ サントリーからは、まとめた数量でお願いしたいと言われている。他地区が同じタイミングで出来るのなら問題ない。

---

### 《中国地区》(分科会とりまとめ：中村委員)

発表者：森田泰元氏 (備後ローズスター分団分団長)

会長：森田泰元氏 (備後ローズスター分団分団長)

副会長：瀬来和男氏 (福山南ローズスター分団分団長)、伊藤昭夫氏 (東広島分団分団長)

監査：吉長義親氏 (八雲ホシカミ分団分団長)、逆井進氏 (ミザール分団分団長)

事務局：

→ 協議会発足は 2005 年。規約を作成し会費も決めたが、うまく機能していないので、今回を新たな出発としたい。協議会会費は年額 ¥2000、今回出席の 6 分団が役員を引き受けることとした。

● 水ロケット地区予選

大会予定日：7 月 11 日 (日)

松江市にて開催し、島根大学協力のもと八雲ホシカミ分団が主担当とする。

■ 本部への要望

・ 水ロケット大会実行要綱に関して、地区大会も準じてやりたいので早く決定してほしい。

⇒ 2 月 22 日開催予定の水ロケット実行委員会にて進めていく。予算が 4 月以降となるため暫定的にはなるかと思うが、できるだけ早くする。

・ 表彰に関して、公平性を再考してほしい。表彰時間もかかりすぎではないか。

⇒ 来年度も同じ形でやる予定だが、表彰を受けた分団にとっては記念撮影等も活動のモチベーションにも繋がるので時間については検討させて頂きたい。

・ SEL 受講に関して、もう少しなんとかならないか。

・ YAC の知名度に関して、JAXA も含め知名度があまりにも低い。

⇒ 知名度アップできるように努力する。

・ ホンモノ体験に関して、東京近郊ではホンモノ体験が身近だが、地方にとっては無に等しく、どのように対応していくのか将来的な課題がある。

⇒ 宇宙センターの場所の問題もあるが、今後コズミックカレッジでは JAXA 職員を派遣する話もある。また、宇宙科学分野・ロケット分野・衛星分野・国際協力分野・天文分野について、YAC ホンモノ大使を 5 名任命しているので、活動に合わせご相談頂きたい。

-----

《四国地区》(分科会とりまとめ：臼井委員)

発表者：臼井敏夫氏 (本部運営委員・呉やまと分団副分団長)

会長：未定

事務局：未定

→8分団のうち1分団のみ出席のため。

●水ロケット地区予選

大会予定日：未定 (今日は1分団のみのため日を改めて話し合う。)

●組織の活性化：クリーン・スマート・フェア、子ども：続ける・結ぶ・広める・深めること、これらのキーワードを合わせた教育の網の目が重要である、と話ができた。

●休眠分団について、再度、宇宙教育を推進していく。繋がりを活かして来年の会議では違う形態になることを願う。

●教材開発について

●SELについて

それぞれの分団が持ち味を活かしながら、全体に調和していくことを四国では大切にして全国に伝えていきたい。

-----

《九州地区》(分科会とりまとめ：高橋委員)

発表者：高橋徹氏 (本部運営委員・おおいた分団分団長)

会長：中村堅太郎氏 (入来 VERA 分団分団長)

事務局：未定

→協議会発足は2005年。規約は作成済み。規約によると、1年ごとの持ちまわりのため、県で持ち回りとする。県に複数分団がある場合は、古い分団から会長を選出する。年に1回、協議会定例会を開くようにする。

※原則として九州地区合同キャンプのときに開催

●水ロケット地区予選

大会予定日：8月21、22、23 2泊3日

子どもたちのつながりを考え、各分団、各県から参加してもらいたい。来年度は集まった子どもたちがその場で製作して、打ち上げるようにしたい。

地区大会は年齢制限を設けず、全国大会は規約に従った年齢制限を設ける。一般参加は人数を制限して抽選等に対応する。

当初、7月17日～19日で青少年研修センターの予定だったが、250名位の規模になるため、次候補会場となる霧島自然ふれあいセンターが8月21、22、23で仮押さえできた。可能であればこの日程で実施したい。

●九州地区合同キャンプ

水ロケット地区大会や天体観測を盛り込みたい。新しい企画として、最終日に子どもたちや大人のための学習会を分科会形式(リモートセンシング、ロケット、天体観測など)で行いたい。地区連絡協議会の定例会をこの日に盛り込む。

●SEL

九州内で開催される SEL の翌日に教材集の実習会を開きたい。

12月に延岡分団もできたので、SELの取得も推進しながら九州全体を盛り立てていきたい。

■本部への要望

・YACの認知度を高めてほしい。(地区で広報部長を選出しようかという話もでた。)

副本部長挨拶：的川泰宣副本部長

「今年、建設的な意見が出て、もっとも充実した分団長会議だったと思う。今後のことを考えて4つ話をしたい。1つ目は、多様な人材を育てなければならない。新しい時代をつくろうと、前向きに生きて行く人を育てることが我々の役目。2つ目は、地球を一つの星として外から見ている、そういう世代が育ってきている。多彩な人材を育てるときに、前提にしなければいけないことは、子どもたちの心の中に何がひろがっているのかを謙虚に見つめる必要があるということ。3つ目は、これからの地球の外から地球を自然に見ている世代、宇宙旅行に当然行けると思っている世代は、我々の世代とは大分ちがう。だからこそ、今、宇宙教育だと納得できる。ロケット、星、衛星のことを教えることだけが宇宙教育ではなく、子どもの世代が、自由自在に自分の未来をつくるために使える、処理できるようにするために宇宙の素材を、子どもたちに能率よく提供していくことが我々に課せられた宇宙教育だと思う。子どもたちの広がっている世界から出発しないと共鳴はできない。4つ目は、地区連絡協議会ができたので、各地区の特色をしっかりと表せるような活動が、新しい時代をつくるうえで大きな役割を持つ。そして、大きなところで団結し、これから数年後には、みなさんの力で、日本の宇宙少年団を、世界を、リードしていける組織にしていきたい。」と呼びかけられた。

●次回分団長会議について

【決定事項】

日程：平成23年1月22日(土)・23日(日)

議長：北海道地区 荒井誠氏(釧路分団分団長)

閉会

以上